

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 9 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24320125

研究課題名(和文) 16～17世紀の日本海地域における情報と大名

研究課題名(英文) Aspects of information gathering by Daimyos in the coastal area of the Japan Sea in the 16th and 17th Centuries

研究代表者

佐藤 孝之 (SATO, Takayuki)

東京大学・史料編纂所・教授

研究者番号：30170757

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,700,000円

研究成果の概要(和文)：日本海地域とこれに関係の深い諸大名を対象に、藩と藩、藩と幕府との間にみられた情報収集・交換の実際と意義について究明した。具体的には、奥羽大名の関ヶ原合戦前後の情報獲得、加賀藩家臣団形成過程における情報ネットワーク、萩藩の幕府との交渉における人脈の在り方等が解明された。また、松平忠直事件という政治的重大事件をめくり、福井藩・津山藩・秋田藩・幕府の動向が、一次史料を用いた事実究明と、家譜・系譜類にみる言説の変遷という両側面から解明され、事件の過程における情報獲得・交換の在り方が明らかになった。これらの研究成果については、科研費研究成果報告書『近世初期の大名と情報』として刊行した。

研究成果の概要(英文)：This study, targeting on Daimyos (feudal clans) on the coast of the Sea of Japan, elucidated actual conditions and significances of information collection and exchange between a Daimyo and another or between a Daimyo and the shogunate; for example, about the information acquisition of Daimyos in the northeast region before and after Sekigahara battle, the information network in the formation process of Kaga clan vassal group and the role of personal connection in the negotiations between Hagi clan and the shogunate. In addition, the political trend of Fukui clan, Tsuyama clan, Akita clan and the shogunate in Matsudaira Tadanao incident, a political milestone in the early 17th century, was elucidated through both the fact investigation using the primary historical materials and the transition of discourse seen in genealogies of Daimyos and their vassals. These research results were published as a research report, "Early Modern Daimyos and information".

研究分野：日本近世史

キーワード：大名 情報 家臣の由緒 松平忠直 将軍上洛 家譜・系譜 越前御陣 関ヶ原合戦

1. 研究開始当初の背景

16世紀後半から17世紀半ばにかけては、戦国動乱の時代から近世統一政権の成立期であり、織豊政権を経て、徳川政権（江戸幕府）がその政権基盤を確立した時期である。いわば中・近世移行期といえる時期であるが、当該期について、近年では村・地域を対象とした村請制や土豪の位置づけなど、中・近世の連続・非連続をめぐる論議が展開されている。一方、織田政権・豊臣政権・徳川政権それぞれの性格をめぐる、天皇・朝廷との関係性、そして東アジア情勢との関係性も視野に入れた近世国家論として展開している。

そうしたなかで、戦国大名から幕藩大名へと変質しながら、各地に展開した諸大名の動向については、個別的な検討はあっても、広域的かつ俯瞰的に追究されたことはなかったのではないかと考えられる。各大名と朝廷・幕府との関係、各大名間の関係などを広域的・俯瞰的に追究することによって、16世紀後半から17世紀半ばにかけて、すなわち中・近世移行期の政治史研究に新たな展開をもたらすものとなる。

そして、この研究を遂行するうえで重要な視点として“情報”を設定し、“情報”をキーワードに、諸大名と政治的“中央”（京都・江戸）を結ぶ情報の流れ、諸大名間における情報交換の在り方の解明を主眼に置く。戦国大名は他地域との情報の流通を個別の使者に頼っていたとされるが、幕藩大名では情報、とりわけ政治情報の回路が常に政治的“中央”と関連付けられるとともに、情報の収集・管理が制度化され、システムとして機能するようになって考えられる。これを“情報システム”として捉え、情報ルートと密接に関わる物流や交通に関する従来の研究蓄積も踏まえ、複合的な観点から追究することによって、情報と政治をめぐる新たな研究成果が得られるものと考えられる。

2. 研究の目的

そこで本研究では、16世紀後半から17世紀半ばの日本海地域を舞台として、戦国大名から幕藩大名へと変質するなかで、諸大名がいかにか情報収集・管理のシステム化を達成するかを、(1) 諸大名と朝廷・幕府関係者との交流、(2) 諸大名間の交流、(3) 大名家内部機構の機能、という個別の大名家がそれぞれに持つと考えられる情報収集・管理の回路に注目して解明し、その分析結果を比較対照し、日本海地域社会のなかに位置付けることにより、当該期の日本海地域の政治的特質に迫ろうとするものである。

そして、分析・検討に当たっては、当該地域の大名家に伝来した史料の調査・蒐集を通じて、重大な政治的動向に対する各大名における情報収集の在り方、諸大名間における情報交換の在り方と、その変化に着目する。諸大名間および幕府と大名間の関係を複合的

に考察し、“情報”をキーワードに広域的・俯瞰的に解明することを目的とする。

3. 研究の方法

日本海地域の大名家史料について、広範な調査を行なう。対象は大名本体や重臣家に伝来した一次史料はもちろん、当主の伝記や家臣団の系図・家譜などの編纂史料も含み、それらの史料に登場する人物情報をデータベース化することにより、編纂史料を研究資源化し研究に役立てる。

各大名では、膨大な編纂史料や系譜史料を残している場合があり、それらの史料を検討することによって、中・近世移行期における動向が各藩において後世にどのように伝えられたのかを解明することも、歴史の記憶と記録という観点から興味深いテーマとなるものである。

具体的には、秋田藩佐竹家、加賀藩前田家、福井藩松平家、長州藩毛利家を重点的に調査し、関連して仙台藩伊達家、米沢藩上杉家、津山藩松平家等々をも調査した。そのなかで、秋田藩の藩主・家老間の書状を目録化するとともに、同藩家臣の系譜「元禄家伝文書」を全点調査・撮影し、加賀藩前田家家臣の系譜「先祖由緒井一類附帳」についても全点調査し、必要な部分を撮影した。また、「先祖由緒井一類附帳」および秋田藩家老梅津政景の日記「梅津政景日記」については、学術支援職員を雇用して、データベース化のための入力作業を行ない、研究資源化を試みた。

一方、研究の進捗状況の確認と成果の中間報告のために、研究代表者・研究分担者による研究会を2回開くとともに、最終年度には公開研究会「近世初期の大名と情報」を開催し、研究代表者・研究分担者5名が報告した。

4. 研究成果

日本海地域とこれに関係の深い諸大名を対象に、藩と藩、藩と幕府との間にみられた情報収集・交換の実際と意義について成果が得られた。具体的には、以下ようになる。

(1) 仙台藩伊達氏を始めとする奥羽大名の関ヶ原合戦後における対徳川氏をめぐる情報獲得の在り方を究明した。

(2) 加賀藩家臣団の「由緒」を素材に、家臣団形成過程を明らかにし、そこにおける人的ネットワークの存在を指摘した。

(3) 長州藩の藩庁における独特の文書管理方法が、幕府との交渉過程で得られた人脈の情報の保存に役立ったことを解明した。

(4) 元和9年(1623)に起こった越前北莊城主松平忠直の隠居事件という政治的重大事件をめぐる、当事者といえる福井藩と津山藩の動向、それとは異なる立場の秋田藩の状況等进行分析し、一次史料を用いた事実究明と、家譜・系譜類を対象とした事件に対する言説の変遷の解明とを行なった。

以上、研究成果を当該期の日本海地域社会

全体に位置づけるには、さらに課題とする点も少なくないが、これらの研究を通して、“情報”をキーワードとする近世初期大名をとりまく諸側面が明らかになった。とくに、松平忠直事件という政治的重大事件をめぐる、事件の過程における情報獲得・交換の在り方について、従来にない大きな成果が得られたと考える。

なお、これらの研究成果については、公開研究会での報告5本をベースに、ほかに関連成果2本を加えて、科研費研究成果報告書『近世初期の大名と情報』(東京大学史料編纂所研究成果報告2015-2)として刊行した。この報告書は、大学・研究機関・研究者等に送付した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 28件)

佐藤 孝之、加賀藩家臣団の形成過程と家臣の由緒 - 「先祖由緒并一類附帳」を素材として -、東京大学史料編纂所研究成果報告 2015-2、『近世初期の情報と大名』、査読無、2016、21 - 41

小宮 木代良、松平忠直隠居前後の越前支配について、東京大学史料編纂所研究成果報告 2015-2『近世初期の情報と大名』、査読無、2016、42 - 64

小宮 木代良、松平忠直事件に関わる言説の変遷 - 福井藩・津山藩・幕府等において -、東京大学史料編纂所研究成果報告 2015-2『近世初期の情報と大名』、2016、査読無、65 - 116、

金子 拓、松平忠直の隠居と秋田藩 - 「越前御陣の記憶」 -、東京大学史料編纂所研究成果報告 2015-2『近世初期の情報と大名』、査読無、2016、117 - 133、

及川 亘、将軍上洛供奉における萩・毛利家の宿所について - 「毛利家文庫」の未紹介史料 -、東京大学史料編纂所研究成果報告 2015-2『近世初期の情報と大名』、査読無、2016、168 - 179

黒嶋 敏、関ヶ原合戦前後の奥羽大名と情報、東京大学史料編纂所研究成果報告 2015-2『近世初期の情報と大名』、査読無、2016、6 - 20

佐藤 孝之、元和九年秀忠上洛の江戸出立日をめぐって、日本歴史 808、査読有、2015、60 - 68

金子 拓、最上氏と出羽の領主、遠藤ゆり子編『東北の中世史4 伊達氏と戦国騒乱』、査読無、2015、120 - 151、

金子 拓、島津家文書「大坂御弓箭ノ時御城ノ絵図」について - 大坂冬の陣の一齣 -、東京大学史料編纂所附属画像解析センター通信 70、査読無、2015、2 - 9、

金子 拓、東京国立博物館所蔵長篠合戦図屏風について、東京大学史料編纂所附

属画像解析センター通信 71、査読無、2015、8 - 20

小宮 木代良、『白帆注進外国船出入注進』解題 - 有明海の船乗りの目から見た幕末 -、『佐賀県近世史料』5-2、査読無、2015、1 - 37

金子 拓、天正四年興福寺別当職総論をめぐる史料、田島公編『禁裏・公家文庫研究』5(思文閣出版)、査読無、2015、197 - 213

黒嶋 敏、島津義久文書の基礎的研究、2015年3月、『東京大学史料編纂所研究紀要』25、査読無、2015、10 - 28

佐藤 孝之、加賀藩家臣団の由緒に関する予備的考察 - 「先祖由緒并一類附帳」を素材として -、石川県史だより 54、査読無、2014、1 - 4

金子 拓、久我晴道の花押と文書、東京大学史料編纂所附属画像解析センター通信 66、査読無、2014、2 - 8

金子 拓、長岡藤孝と織田信長 - 天正二年から三年にかけてのふたり -、熊本県立美術館細川コレクション図録『信長からの手紙』1、査読無、2014、130 - 137

及川 亘、中世の戦争と商人、高橋典幸編『生活と文化の歴史学』5(竹林舎)、査読無、2014、382 - 403

金子 拓・遠藤 珠紀、(資料翻刻)國學院大学図書館所蔵「諸奉行」、國學院大学校史・学術資産研究 6、査読無、2014、145 - 183

金子 拓、秋田藩家老小場宣忠関係文書について、秋大史学 60、査読有、2014、18 - 51

黒嶋 敏、室町時代の境界意識、歴史評論 767、査読有、2014、45 - 55

⑲ 金子 拓、誠仁親王の立場、織豊期研究 15、査読有、2013、1 - 20

⑳ 金子 拓、梅津家の史料と秋田藩の修史事業、東京大学史料編纂所研究成果報告 2013 - 3『佐竹義宣書状集 - 梅津憲忠宛』、査読無、2013、121 - 134

㉑ 及川 亘、佐竹義宣と鷹、東京大学史料編纂所研究成果報告 2013 - 3『佐竹義宣書状集 - 梅津憲忠宛』、査読無、2013、135 - 144

㉒ 佐藤 孝之、元和九年秀忠上洛の出立日をめぐって、東京大学史料編纂所研究成果報告 2012 - 6『十七世紀前半西南諸藩における大規模軍事動員』、査読無、2013、85 - 95

㉓ 小宮 木代良、松平忠直事件前後の諸大名の動員準備、東京大学史料編纂所研究成果報告 2012 - 6『十七世紀前半西南諸藩における大規模軍事動員』、査読無、2013、11 - 38

㉔ 及川 亘、萩藩毛利家・寄組「柳沢文書」の天下普請関係史料、東京大学史料編纂所研究成果報告 2012 - 6『十七世紀前半西南諸藩における大規模軍事動員』、査

読無、2013、55 - 83

- ⑳ 及川 亘、土佐山内家宝物史料館蔵「長帳（山内家御手許文書）」甲五（元和九年）・甲六（寛永元年）、東京大学史料編纂所研究成果報告 2012 - 6『十七世紀前半西南諸藩における大規模軍事動員』、査読無、2013、109 - 228
- ㉑ 及川 亘・幡鎌 一弘、『春日社司中臣佑範記』元和九年、東京大学史料編纂所紀要、査読無、2013、187 - 211

〔学会発表〕(計 24 件)

金子 拓、最上氏と出羽の領主、山形市立図書館市民講座(招待講演) 2016 年 3 月 5 日、山形市立図書館(山形県山形市)

金子 拓、織田氏にとっての長篠・設楽原の戦い、東京大学史料編纂所特定共同研究シンポジウム「長篠・設楽原の戦いを考える」、2016 年 2 月 21 日、新城文化会館(愛知県新城市)

佐藤 孝之、加賀藩家臣団の形成過程と家臣の由緒 - 「先祖由緒并一類附帳」を素材として - 、公開研究会「近世初期の大名と情報」、2015 年 12 月 25 日、東京大学史料編纂所(東京都文京区)

小宮 木代良、松平忠直隠居前後の越前支配について、公開研究会「近世初期の大名と情報」、2015 年 12 月 25 日、東京大学史料編纂所(東京都文京区)

金子 拓、松平忠直の隠居と秋田藩 - 「越前御陣」の記憶 - 、公開研究会「近世初期の大名と情報」、2015 年 12 月 25 日、東京大学史料編纂所(東京都文京区)

及川 亘、将軍上洛に供奉する大名の宿所について、松平忠直隠居前後の越前支配について、公開研究会「近世初期の大名と情報」、2015 年 12 月 25 日、東京大学史料編纂所(東京都文京区)

黒嶋 敏、関ヶ原合戦前後の奥羽大名と情報、松平忠直隠居前後の越前支配について、公開研究会「近世初期の大名と情報」、2015 年 12 月 25 日、東京大学史料編纂所(東京都文京区)

黒嶋 敏、原本調査の重要姓 - 琉球渡海朱印状を例に - 、シンポジウム琉球史料学の船出、2015 年 12 月 12 日、沖縄県立芸術大学(沖縄県那覇市)

金子 拓、織田信長と朝廷、第 8 回信長学フォーラム基調講演(招待講演) 2015 年 11 月 22 日、じゅうろくプラザホール(岐阜県岐阜市)

佐藤 孝之、「御上洛」情報の真偽、東京大学史料編纂所特定共同研究「佐賀藩家臣多久家史料の研究」成果報告シンポジウム「多久家文書を読みなおす」、2015 年 11 月 15 日、東原庵舎(佐賀県多久市)

金子 拓、それぞれの大阪の陣 - 「勝ち組」の事情 - 、続・古典を読む - 歴史と文学(招待講演) 2015 年 8 月 1 日、長野県立長野高校(長野県長野市)

黒嶋 敏、『鉄の船』の真相と九鬼嘉隆 - 海からみた信長・秀吉政権 - 、村上水軍シンポジウム(招待講演) 2015 年 7 月 25 日、石文化伝承館(愛媛県今治市)

黒嶋 敏、戦国大名と海の交易者たち - 南九州の事例から - 、中国社会文化学会(招待講演) 2015 年 7 月 12 日、東京大学(東京都文京区)

金子 拓、『信長記』と美濃、岐阜県立博物館特別展「天下人の時代」講演会(招待講演) 2015 年 5 月 24 日、岐阜県博物館(岐阜県岐阜市)

黒嶋 敏、二つの将軍家 と奥羽の連歌師、東北中世史研究会、2015 年 1 月、仙台市民会館(宮城県仙台市)

黒嶋 敏、信長の武威と軍記世界、2014 年 7 月、軍記・語り物研究会、明治大学(東京都文京区)

金子 拓、秋田藩の修史事業と梅津家の文書 - 梅津憲忠宛佐竹義宣書状をめぐって - 、秋田大学史学会、2013 年 9 月 21 日、秋田大学(秋田県秋田市)

金子 拓、國學院大学図書館宮地直一コレクション所蔵の吉田兼見自筆「諸事書抜」について、國學院大学研究開発推進機構校史・学術資産センター研究会、2013 年 9 月 13 日、國學院大学(東京都渋谷区)

黒嶋 敏、室町幕府と遠国・境界、中世史サマーセミナー(招待講演) 2013 年 8 月 24 日、子規記念博物館(愛媛県松山市)

黒嶋 敏、島津義久文書の基礎的研究、鷹島地域史研究会、2013 年 7 月 15 日、黎明館(鹿児島県鹿児島市)

㉒ 佐藤 孝之、元和九年秀忠上洛の江戸立日をめぐって、東京大学史料編纂所公開研究会「17 世紀前半西南地域における大規模軍事動員」、2012 年 12 月 7 日、東京大学(東京都文京区)

㉓ 小宮 木代良、松平忠直事件前後の諸大名の動員準備、東京大学史料編纂所公開研究会「17 世紀前半西南地域における大規模軍事動員」、2012 年 12 月 7 日、東京大学(東京都文京区)

㉔ 及川 亘、萩藩毛利家・寄組「柳沢文書」の天下普請関係史料、東京大学史料編纂所公開研究会「17 世紀前半西南地域における大規模軍事動員」、2012 年 12 月 7 日、東京大学(東京都文京区)

㉕ 黒嶋 敏、境界論と主 - 従の関係、史学会第 110 回大会日本中世史シンポジウム「中世史学の未来像を求めて」、2012 年 11 月 11 日、東京大学(東京都文京区)

〔図書〕(計 19 件)

黒嶋 敏(単著)、琉球王国と戦国大名、吉川弘文館、2016、226

金子 拓(単著)、吉川弘文館、織田信長権力論、2015、427

黒嶋 敏(共著)、白根靖大編『東北の中世史 3 室町幕府と東北の国人』、吉川弘

文館、2015、79 - 111
黒嶋 敏(単著) 天下統一 秀吉から家康へ、講談社、2015、247
佐藤 孝之(共著) 日本史の森をゆく(東京大学史料編纂所編、中公新書) 中央公論社、2014、203 - 207
小宮 木代良(共著) 日本史の森をゆく(東京大学史料編纂所編、中公新書) 中央公論社、2014、44 - 48
及川 亘(共著) 日本史の森をゆく(東京大学史料編纂所編、中公新書) 中央公論社、2014、193 - 197
黒嶋 敏(共著) 日本史の森をゆく(東京大学史料編纂所編、中公新書) 中央公論社、2014、65 - 69
金子 拓(共著) 日本史の森をゆく(東京大学史料編纂所編、中公新書) 中央公論社、2014、29 - 33
金子 拓(単著) 織田信長 天下人の実像、講談社、2014、296
金子 拓(共著) 豊臣正謙の正体(山本博文他編) 柏書房、2014、179 - 207
黒嶋 敏(共著) 中世の人物第三巻 後部権力の変容と仏教界(平雅行編) 清文堂出版、2014、127 - 141
黒嶋 敏(共著) 中世の西国と東国(川岡勉編) 戎光祥出版、2014、95 - 116
黒嶋 敏(共著) 関ヶ原合戦の深層 - 豊臣政権の限界(谷口央編) 高志書院、2014、165 - 190
金子 拓・及川 亘・加藤 昌宏編、佐竹義宣書状集 - 梅津憲忠宛(東京大学史料編纂所研究成果報告 2013 - 3) 東京大学史料編纂所、2013、166
黒嶋 敏(単著) 海の武士団 水軍と海賊のあいだ、講談社、2013、236
黒嶋 敏(共著) 中世人の軌跡を歩く(藤原良章編) 高志書院、2014、113 - 132
黒嶋 敏(共著) 『信長記』と信長・秀吉の世界(金子 拓編) 2012、269 - 296
黒嶋 敏(単著) 中世の権力と列島、高志書院、2012、332

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐藤 孝之(SATO, Takayuki)

東京大学・史料編纂所・教授

研究者番号: 30170757

(2) 研究分担者

小宮 木代良(KOMIYA, Kiyora)

東京大学・史料編纂所・教授

研究者番号: 90186809

金子 拓(KANEKO, Hiraku)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号: 10302655

及川 亘(OIKAWA, Wataru)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号: 70282530

黒嶋 敏(KUROSIMA, Satoru)

東京大学・史料編纂所・助教

研究者番号: 90323659